

高松市立古高松小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、夢に向かってチャレンジし、たくましく生きる子どもの育成

【目標】

- 体を動かす楽しみを味わうことで、運動習慣を身に付けることを目指す。
- 合格証や達成賞をその都度配布し、認めることで、自己有用感を高めるとともに、目標に向かってがんばろうとする態度を育成する。
- スポーツ委員会主催の活動を工夫し、敏捷性・投力の数値が昨年度より上回ることを目指す。

【取組み】

基礎体力の向上

「讃岐っ子パワーみんなでチャレンジ」のペアやグループによる運動等に挑戦し、記録を目指しながら体力の向上を図っていきたい。また、運動への意欲を高めるために、達成した記録を公表し、競い合えるようにする。

体育備品の充実・環境整備

竹馬や一輪車を使って遊ぶ児童数を増やすために、用具を移動したり、修理したりする。また、ボールに恐怖心がある児童でも楽しめるようにソフトドッジボールを購入する等、体育備品を充実させ、児童が様々な運動に親しめるようにする。

表彰による意欲の向上

水泳、なわとび、持久走の取り組みにおいて、各学年団で達成目標・基準を設定し、児童のがんばりや目標達成に対して合格証や達成賞として表彰する。継続して運動に取り組もうとする意欲・態度の育成を図る。

スポーツ委員会主催の運動企画

定期的に昼休みに、体育館でスポーツ委員会が企画した運動や遊びを楽しむことができるようにする。特に、新体力テストで県平均を下回っていた俊敏性を高める運動や投運動を扱い、ゲーム化する等工夫して取り組めるようにし、俊敏性と投力の向上を図る。

【現状】

- 休み時間を楽しみにして、毎日元気に体を動かしている児童がいる反面、運動することが楽しくない・苦手であることを理由に、一週間の中で外に出て遊ぶ時間を全くもたない児童も多くいる。外遊びをしている児童は、サッカーをする児童が中心であり、ドッジボール、一輪車、竹馬、鬼ごっこ等の遊びをする児童は少ない。また、運動する児童とそうでない児童の二極化が進んでいるとともに、遊び仲間が固定化されていることも課題である。

【本校の課題】

- 令和元年度の体力・運動能力調査、運動週間等調査の結果から、男女共に全学年の合計点が県平均を下回っている。握力、ソフトボール投げ、反復横とび、20mシャトルランの種目においては、ほとんどの学年で県平均を下回っている。
- 体育の授業において必要とする用具の数が足りないことがある。また、竹馬が体育倉庫にある等、環境整備が整っていないことがある。